

(様式3)

## 自己評価結果票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.理念に基づく運営</b>			
<b>1.理念と共有</b>			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>今までの生活の中で習慣づいている事や地域の中で暮らし続けるための目標となるもので、内容がわかりやすく、利用者や家族に理解してもらえるもの。</p>	<p>地域の中で暮らし続けるために家族の協力を得ながら、地域行事への参加の支援や地域の友人、知人との交流が途絶えないよう支援している。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>理念の意味を理解し、実践に向け日々取り組んでいる。</p>	<p>実践に向け、職員全員で取り組んでいる。できる事の支援、他者との交流の支援等取り組んでいる。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	<p>家族や地域の人々への理解を得られるよう取り組んでいる。</p>	<p>面会・見学等で説明。 地域連携室主催の家族会での交流や勉強会など行なっている。</p>
<b>2.地域との支えあい</b>			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>門や玄関等が開錠している時間滞はどなたでも来所できるようにしている。随時、見学者も受け入れている。</p>	<p>畑に来られている方や隣家の方々には、日々のあいさつや花・野菜等を頂いたり、利用者の方と気軽に会話されている。</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>利用者本人が希望される行事や地域活動を家族等と相談し、参加できるよう支援している。</p>	<p>定期的な友人・知人の訪問や隣接小学校の運動会・音楽会・作品展等に参加。地域の敬老会や清掃活動等への参加を支援している。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p> <p>同敷地内のヘルパーステーションや訪問看護ステーションの職員等と高齢者の日常生活について情報交換している。</p>		<p>高齢者向けの調理献立、食材や調理の工夫、認知症高齢者の対応の仕方等、意見交換し活かせるよう取り組んでいる。</p>
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p> <p>改善課題や実施している内容の向上にむけ全員で話し合い、実践できるものから取り組んでいけるよう関係部署との連携を図り、課題達成に向け努力している。</p>		<p>常に課題等を見直し、サービス向上に繋げていけるように、今後も全員で取り組んでいきたい。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p> <p>会議では、委員・利用者家族等からのサービス内容や評価への取り組み等の質問や意見を聞き、サービス向上へ活かしている。</p>		<p>委員・利用者家族の方と話し合いの後、地域連携室主催の家族会にも参加して頂き、癒しの時間や介護についての勉強会なども行っている。</p>
9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p> <p>介護保険法の改定で地域密着型サービスと位置づけられて、市担当者とは接触の機会も多く、情報交換と共にサービスの質の向上にも取り組んでいる。</p>		<p>市担当者とはいつでも相談できる関係にあり、今後も何かあれば相談しに行く予定である。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p> <p>制度の理解はしている。必要性のある利用者に対しては、活用できるよう関係機関へ連絡等し、支援している。</p>		<p>過去に成年後見制度を利用し、弁護士事務所を通じて支払い等された利用者がおられ、支援をしたことがある。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p> <p>利用者が自宅や事業所内で虐待されることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>		<p>利用者が家族等と外出・外泊後施設内で、着替えや入浴等利用者の身体状況（アザ・打ち身・外傷等）把握に努めている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>サービス担当者会議等を開き、関係する機関に出席してもらい、十分な説明を行っている。</p>	<p>入所・退所にかかわらず相談する機会を作り、関係機関の職員に出席してもらい、本人及び家族等に十分説明し、不明点の質問を受け理解と納得を図っている。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者からの意見・不満・苦情等は、その都度職員が聞き対応している。利用者本人から直接聞けない時は、家族を通して聞き対応している。</p>	<p>内容によって時間のかかるもの、相談を必要とするものもある。対処方法をよく考えて、利用者にわかりやすく説明し納得できるようにしている。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月お報告書（おたより）及び面会時に状況を説明している。急な場合は、電話連絡している。</p>	<p>家族の面会時に詳しく状況を説明している。預り金の明細書、外来受診等の領収書を定期的に家族に渡している。個々にあわせた対応を心がけている。質問等にもその都度納得のいく説明を心がけている。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族等からの意見・不満・苦情等を、その都度職員が聞き対応している。</p>	<p>家族等からの意見・不満・苦情等を言い表しやすい環境を作っている。内容によってはミーティングなどを開いて、話し合いの場を設け対応し運営に反映させている。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>日々の気付きを申し送りの中やミーティングの中で意見をととして出し、全員で話し合う機会を設けている。</p>	<p>定期的開催している主任会・法人幹部会等で意見や提案を聞き、運営に反映させている。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>併設の老健等と話し合い、勤務の調整をしている。</p>	<p>柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するために、他部署からの応援体制が整っている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の部署異動や離職の場合は利用者に説明している。混乱はない。		新しい職員が異動してきた場合も説明し、今いる職員が馴染みの関係になるまでフォローしている。
<b>5.人材の育成と支援</b>			
19 職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受ける機会を設けている。資格取得も支援している。		職員の経験や勤務年数に応じて、県立リハビリセンター内で行なわれる各種研修及び他の研修・講習等の参加や、介護福祉士・介護支援専門員等の資格取得も支援している。
20 同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の介護サービス事業者連絡会の会議に参加し、その中でグループホームの事についても情報交換等行っている。		
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	部署ごとの歓送迎会、全体としての新入職員歓迎会・忘年会等行い、情報交換や親睦を深めている。		
22 向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	気付きを話し合い、各自の介護技術の向上を図り、努力や実績が反映されるよう努めている。		職員の資格取得の援助をしながら、各自の向上心を促進している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>ゆっくり話をする機会を作り、本人の思いや訴え要望等を聞き、受け止める努力をしている。</p>	<p>スタッフから質問するだけでなく、本人から話しをしてもらえるのを待ちながらゆっくり対応している。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>相談しやすい雰囲気や環境を作り、家族等の思いや要望等をよく聞き、受け止める努力をしている。</p>	<p>家族の思い等をゆっくり聞き、少しでも思いを共有できるように、その都度機会を作っている。</p>
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>初期対応として、まず必要と思われる支援を見極めるよう努力をしている。</p>	<p>本人・家族から得た情報を基に、施設スタッフ・訪問看護師・リハビリ等他職種と連携を図り、支援の方向性を相談しながら対応している。</p>
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前に家族と一緒に見学してもらい、雰囲気等体験してもらっている。ならし入居も実施している。家族等の面会も多くしてもらっている。</p>	<p>声かけを多く行い、顔馴染みの関係を築けるよう工夫している。レクリエーション等への参加にて、利用者同士も顔馴染みになれるよう支援している。</p>
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>日常生活の中での、ちょっとした工夫・節約・昔ながらの方法など、利用者から教えてもらったりしている。</p>	<p>日常生活の中で、掃除・洗濯・調理・裁縫など得意な分野で、利用者より工夫や方法を教えてもらったり、意見を出し合ったりと良い関係を築くよう努めている。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	利用者を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている	利用者の身体的・精神的状態を家族と共に把握し、穏やかに生活していけるよう家族等の支援の協力をお願いしている。		利用者の日々の様子や現在の気持ち等を家族に伝え、少しでも利用者の思いが叶うよう、無理のない範囲で協力をお願いしている。
29	利用者との家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの利用者との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	良い関係が築けるよう、スタッフが仲介したり情報提供を行い、家族からの質問についても解りやすく説明している。		定期的な面会以外にも、見学会・買い物ツアー・誕生会等各行事への案内を行い、一緒に過ごせる機会を作り、良い関係づくりが出来るよう支援している。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援  利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人・家族等の希望により、外泊・外出・結婚式・墓参り・法事等協力が得られている。		馴染みの美容院や飲食店など、家族に協力をお願いし、外出の機会を得られている。
31	利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関わりを大切にし、声をかけ合い、お互いに思いやりを持ちながら生活していける努めている。		スタッフがすぐに利用者同士の間に入り関わるのではなく、利用者同士が話し合える機会を大切にし、見守りを行っている。難聴者には、スタッフがパイプ役となることで関係が築いていけるよう支援している。
32	関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所後も気軽に立ち寄って頂く様声かけし、相談や近況報告を受けたりしている。		いつでも気軽に立ち寄って頂いたり、電話連絡して頂けるような雰囲気作りを行っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1.一人ひとりの把握</b>			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	一人ひとりの思いや希望等の把握に努め、言葉に出して表現できない人に対しては、表情や動作・行動からくみ取るようにしている。	グループホームでの生活についての希望・意向を聞き、介護計画に反映させている。把握が困難な時はカンファレンス等開き情報交換し、変化に応じてその都度見直しをしている。
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	生活歴等、得た情報はアセスメントシートに記入し、情報を共有している。	アセスメントを行い、生活歴等情報収集を行っている。プライバシーに配慮しながら、グループホームを利用するに至るまでの経過の把握に努めている。
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	本人に声をかけながら、その日の状態を把握する。声のトーンや表情・動作等も含め観察を行い、スタッフはその情報を共有し対応している。	自由に過ごして頂けるよう、その日の気分・体調等状態に合わせた対応を行っている。また、利用者の出来る事を把握し、スタッフ見守りのもと行いながら、自信に繋げていけるよう支援している。
<b>2.より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	日々の状態を本人・スタッフと話し合いながら、本人が望む生活を主に介護計画を作成している。	本人・家族に介護計画を説明し、意見・希望等確認を行い、納得の上サインを頂き、家族に介護計画を交付している。
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	3ヶ月に1回介護計画の見直しを行っている。状態等の変化があれば、その都度話し合いにて現状に即した介護計画を作成している。	介護計画の見直し時期には、日々の状態を本人・家族・スタッフと話し合いながらモニタリングを行い、次の介護計画に活かしている。見直し前に困難な変化が生じた場合は、主治医・訪問看護師・リハビリスタッフ等と話し合い、新たな計画を作成して行くよう努めている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子等は個人カルテの介護記録に記入し、情報を共有し実践等に活かしている。		日々の様子は、入居者記録・介護支援経過・モニタリングチャート等に記入し、またスタッフ同士情報交換を行い、情報を共有し実践や介護計画の見直しに活かしている。
39	事業所の多機能性を活かした支援  利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	母体が病院である為、初期治療が可能である。デイサービスの送迎車の空き時間を利用して、ドライブや見学会に出かけている。		治療の経過観察・検査・急変等の対応がスムーズに行える。リハビリテーションも充実している。訪問看護師にも常に相談しやすい。買い物ツアー・季節の花見学等、外出の機会を作っている。
<b>4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	地域資源との協働  利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議のメンバーに、民生委員・ボランティアグループのリーダーが多く協力を頂いている。		定期的にボランティアグループに来所してもらい、利用者や家族は交流を楽しみにしている。
41	他のサービスの活用支援  利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	法人内の運営会議で、他職種と話し合い、サービス利用について支援している。		支援センター・ヘルパーステーション等より情報提供してもらい、他サービス利用の話し合いや支援をしている。
42	地域包括支援センターとの協働  利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	法人内地域型支援センターを通して、地域包括支援センターへの働きかけをしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医を希望する場合は、診察等を受けやすいよう配慮している。		本人・家族の希望で、母体病院での医師を同意納得の上、主治医に変更される場合も支援している。専門医の受診は、家族の協力を得て適切な対応をしている。
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門治療を受けやすいよう、個別に支援を行っている。		母体病院・老健医師共に、認知症医師研修を受講しているため、治療の経過観察や指示が受けやすい。専門医との連携も取れている。
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	週1回訪問看護師による、健康チェックを実施している。		受診の有無や経過の様子、適切な対応など相談している。利用者自ら不安な事を相談し、助言をもらうこともある
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	早期退院に向けた医療機関との情報交換や相談に努めている。		法人内の地域連携室と退院日の予定や継続して行う薬剤・リハビリテーション等の状況の確認を行っている。
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた方針の話し合いを行っている。		段階をおいて、何度も話し合いの機会を設けている。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化や終末期に向け、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。		医師・看護師・職員・利用者家族等、協力し合っ て行っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>利用者が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	退所で受ける環境の変化による、体調や精神的ダメージを少なくするように話し合いを行っている。		退所に向けてサービス担当者会議を開催し、関係各種よりスタッフが出席し、利用者・家族等による十分な説明及び話し合いを行っている。
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
<b>1.その人らしい暮らしの支援</b>				
(1)一人ひとりの尊重				
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	プライバシーに配慮し、個人情報保護を徹底している。		一人ひとりの対応に気をつけている。記録等、個人情報の管理は事務所に保管している。
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	一人ひとりに合わせた意思決定の場面を作るようにしている。		その人に合わせた支援の仕方を工夫し、対応している。
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	1日の大まかなスケジュールはあるが、あくまでも利用者本人の希望に添うよう支援している。		その日の体調や意欲等を考慮し、強制はせず本人のペースに合わせた支援を心がけている。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	本人の希望に添うよう、声かけに工夫しながら支援している。理美容も本人に確認しながら予約している。		清潔で季節に合った衣類を着てもらおうよう、さりげなくアドバイスしている。理美容は、併設老健で毎月曜日に行えるため、利用者の希望を聞いて行っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの持てる力を活かしながら行っている。献立や調理方法も話し合いながら行っている。		準備や調理・食事・片付け等声かけして、手伝ってもらえる人にもしてもらっている。疲れたり、負担にならないよう配慮している。
55	利用者の嗜好の支援 利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	日常的に楽しめるよう支援している。		食事等の制限のある人、症状により摂取が制限されている人等に配慮して、状況に合わせて支援している。
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄の失敗やおむつ使用を減らすための工夫をしている。		便通の薬の調整、定期的なトイレ誘導等、その人に合った支援を心がけ、日中トイレで気持ちよく排泄できるよう支援している。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりゆったりと入浴してもらっている。		曜日はあらかじめ決めているが、順番はその日によって違うので、入浴時間前のバイタルチェック時に利用者に伝えている。利用者も何曜日が入浴日と覚えていて、用意がスムーズに行えている。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりに合った、安眠や休息の支援をしている。		睡眠不足だったり、疲れた時は居室で横になったり、早目に就寝したり、一人ひとりの状況に応じた支援をしている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	その人に合った役割・張り合い・楽しみごと、趣味等の支援をしている。		調理や裁縫が得意な人、歌が好きな人、絵画や草花が好きな人等楽しみごとを活かせるよう、その人に合った支援をしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持したり使えるように支援している。		おこづかい程度に所持されており、日常必要な物や買い物ツアーの時の購入品の代金など、支払う時に支援している。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出や散歩の支援をしている。		家族と一緒に買い物・食事・ドライブ・日帰り旅行等の支援。近くを散歩等は毎日支援している。中庭で日光浴もしてもらっている。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族等の協力のもと支援している。		友人や遠方の家族等のお見舞いや小旅行・お盆・お正月の家族とのだんらんの為の外泊など、支援している。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が家族等への電話をかける支援をしている。		利用者の家族等の面会が多い為、電話や手紙利用する人が少ないが、電話をかけたい人は詰所や併設施設の電話を、同行して利用してもらっている。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも気軽に訪問してもらえるような雰囲気作りを心がけている。		朝7時から夜7時までの間はいつでも面会可能で、居室や併設の喫茶等利用してもらっている。時間外も対応している。
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロに取り組んでいる。		全ての職員が理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居間・玄関・通用口等、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		鍵をかけないことで、利用者の心理的不安を取り除いている。
67	利用者の安全確認 利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者のプライバシーに配慮しながら安全確認を行っている。		常に誰がどこにいるかを把握しながら、職員は業務や利用者の支援をしている。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な物品の保管・管理を行って、危険防止に努めている。		物品管理簿に個数をチェックしている。常に異常がないか確認している。
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止のための取り組みを行っている。		併設老健事故防止及び安全管理委員会に参加し取り組んでいる。
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の対応マニュアルがある。		応急手当や初期対応はできる。マニュアルどうりの対応をしている。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回夜勤者対象の防火訓練に参加し、連絡網も整備されている。		災害対策マニュアル及び防災訓練を通して行っている。防火設備の点検も定期的に行っている。利用者も一緒に避難訓練も実施している。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p>	<p>入居時に家族等に説明し、対応策を話し合っている。</p>	<p>事故、急な症状の変化等の対応は話し合いが出来ている。詳細は、その都度話し合いで対応している。</p>
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	<p>一人ひとりの体調の変化の早期発見と対応に努めている。</p>	<p>日々の申し送りやカンファレンス等に活かして、速やかに情報を共有し対応に努めている。場合によっては訪問看護師や母体病院看護師に相談している。</p>
74	<p>服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>服薬支援を通して、症状の変化等の確認に努めている。</p>	<p>少しでも変化に気付いたら、母体病院の医師・看護師・訪問看護師に相談し、対応している。また、その記録も記入している。</p>
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	<p>便秘の予防と対応に取り組んでいる。</p>	<p>排便チェック表で確認し、医師・看護師と相談しながら、飲食物の工夫、水分補給、運動、マッサージ等でその人に合った支援に努めている。</p>
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	<p>食後等の口腔内の清潔保持のため、口腔ケアを支援している。</p>	<p>習慣として身につけている人、声かけ見守りが必要な人、介助が必要な人等その人に合った支援をしている。</p>
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>一人ひとりに合った栄養や水分摂取の支援をしている。</p>	<p>管理栄養士・看護師と相談し、一人ひとりに合った支援をしている。夏場は特に水分補給を促している。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肺炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に対する予防やマニュアルがある。		インフルエンザ・イロウィルス等流行の季節は、特に注意し、マニュアル通りの対応をし、来客や家族等にも徹底をしてもらっている。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒予防のため、衛生管理に努めている。		台所・調理用具等の衛生管理と新鮮な食材・賞味期限の確認等に努めている。手洗いも十分行っている。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	開放されたアーチ型の門、花壇や洗濯物の物干しやベンチがあり、生活感があり誰でも出入りしやすい工夫をしている。		花壇には季節の花や野菜・植木鉢等利用者と一緒に世話をしている。玄関前にはベンチが置いてあり、日光浴や休憩ができるようになっている。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者にとって生活しやすく、居心地のよい環境作りを工夫している。		玄関先には、休める椅子を配し、食堂には花が活けてあり、ダイルームは自由に使える、マッサージ機も好きな時に使用できる。新聞も自由に読んでもらっている。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間における一人ひとりの居場所づくりに努めている。		共用空間はドアがいつでも開いていて、自由に使用できる状態になっている。一人で色塗りしたり、折り紙・写経・読書・数人で雑談など、思い思いに過ごしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものや好みのものを置き、居心地よく過ごせるよう居室内を工夫している。		居室内での動きの妨げにならない程度に、使い慣れたタンス・時計・花瓶・絵等置いてもらい、落ち着いて居心地よく過ごせるよう工夫している。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気・空調の配慮をしている。エアコンもその都度希望を聞いたり、天候を見ながら状況に応じてこまめに対応している。		各居室・デイルーム・食堂・脱衣場など、冷暖房・換気扇完備。季節や体調等状況に応じて対応している。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	残存機能を活かし、一人ひとり自立した生活が送れるよう工夫している。		一人ひとりに合った支援を心がけ、できる事を継続して行えるよう、工夫しながら対応している。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりの力に合わせた支援を工夫している。		一人ひとりに合った説明の仕方を工夫し、混乱や失敗を防ぎ、安心して生活できるよう支援している。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	利用者が楽しんで活動できるよう支援している。		鉢植えの花の水やりの世話等、積極的にされている。外周りを散歩する楽しみも支援している。

(  部分は第三者評価との共通評価項目です )

. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

## 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)